

## 「世界日本研究者フォーラム 2009」 プログラム

日時: 2009年10月15日(木) 14:30 17:00  
会場: 国際交流基金本部(さくらホール)  
総合モデレータ: 芳賀徹(京都造形芸術大学名誉学長)  
コメンテータ: 野村彰男(朝日新聞社ジャーナリスト学校長)  
使用言語: 日本語

14:30 開会の辞

14:35 **セッション1:各国・地域における日本研究の現況**  
発表者:楊 棟梁 教授(中国/南開大学世界近現代史研究センター)  
質疑応答

15:05 **セッション2:地域研究と日本研究**  
発表者:Veronica Taylor 教授(米国/ワシントン大学)  
質疑応答

15:35 **セッション3:アジア研究と日本研究**  
発表者:Franz Waldenberger 教授(ドイツ/ミュンヘン大学)  
質疑応答

16:05 **セッション4:日本語と日本研究**  
発表者:李 康民 教授(韓国/漢陽大学)  
質疑応答

16:35 **総括セッション:将来への課題**  
発表者:Harald Fuess 教授(ヨーロッパ日本研究協会会長)  
質疑応答

17:00 閉会の辞

懇親会

## 【発表者略歴】

楊 棟梁 教授(中国/南開大学世界近現代史研究センター)

1982年に南開大学歴史学部世界史科を卒業後、1992年に歴史学博士号を獲得し、1995年教授に昇進。1996年から2007年まで南開大学日本研究センター所長と日本研究院長を歴任し、現在、教育部人文社会科学重点研究拠点である南開大学世界近現代史研究センター所長を専任で務めるほか、中華日本学会副会長、中国日本史学会副会長を兼任している。東京大学、名古屋大学、立教大学で共同研究を経験し、日本、韓国、香港及び中国で開催された国際学術シンポジウムでの発表多数。専門分野は、日本経済史及び日本近現代史。

Veronica Taylor 教授(米国/ワシントン大学)

オーストラリア/モナシュ大学文化学部日本研究科、同大学法科大学院・法学部、ワシントン大学法科大学院を修了。現在、ワシントン大学ロー・スクール教授兼アジア・ロー・センター所長。2008年より国際交流基金の American Advisory Committee 委員長。また、東京大学、神戸大学、名古屋大学、香港大学、オーストラリア国立大学にて客員教授・客員研究員を務める。専門分野は、アジア法、日本法、法の支配。現在は民商法、規制理論、法整備支援の交差を研究対象としている。

Franz Waldenberger 教授(ドイツ/ミュンヘン大学)

ドイツ/ケルン大学を卒業後、同大学で経済学博士課程を修了し、教授資格を取得。1997年からミュンヘン大学日本センターおよび経営学部にて在職。また、東京大学、一橋大学など複数の日本の大学で客員教授を務め、研究活動に従事。複数の経営経済学、日本学の学会メンバーであり、ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)理事会(2002年～2005年)、国際交流基金の欧州日本研究者・研究機関調査(2005年～2008年)のプロジェクト主任等を歴任し、現在は日独フォーラム(日独両政府の諮問委員会)のメンバー、日独産業協力推進委員会の役員、シュタインバイス技術移転センター所長を務める。専門分野は、日本経済、コーポレートガバナンス(企業統治)、国際経営。

李 康民 教授(韓国/漢陽大学)

韓国外国語大学を卒業後、京都大学に留学し、修士・博士課程を修了。1995年から漢陽大学日本言語文化学科にて在職。また、筑波大学、九州大学、カナダ/ヨーク大学で研究活動に従事。韓国日本学会、韓国日語日文学会、韓国日本文化学会、高麗大学日本研究センターなどの編集委員を歴任し、2009年3月から韓国日本学会の会長を務める。専門分野は、15世紀以降の日本語と韓国語の歴史。

Harald Fuess 教授(ヨーロッパ日本研究協会会長)

幼少期をフランスで過ごし、ドイツで中学、高等学校を卒業。米国/プリンストン大学で学士を取得し、ハーバード大学で修士・博士課程を修了。その間、上智大学と東京大学に留学。その後、ドイツ日本研究所研究員、ボストン・コンサルティング・グループフランクフルト支店コンサルタント、上智大学准教授(2001年～2007年)を歴任し、2009年7月までイギリス/シェフィールド大学国立日本研究所副所長。現在はハイデルベルグ大学・世界の中のアジアとヨーロッパCOE研究所に文化経済史教授として在職するかたわら、健康および環境問題についての研究を行っている。また、フランス、ドイツ、イギリスの日本研究誌の国際顧問、2000年からヨーロッパ日本研究協会(EAJS)の理事会委員、2008年9月からは会長を務める。2010年夏に東京大学社会科学研究所で客員教授として研究活動予定。専門分野は、近現代日本史。

【総合モデレータ略歴】

芳賀 徹(京都造形芸術大学名誉学長)

東京大学教養学部を卒業後、東京大学大学院人文科学研究科で博士課程を修了(比較文学比較文化専攻)。文学博士。1955年～1957年、フランス政府給費留学生としてパリ大学に留学。その後、東京大学教養学部専任講師、同助教授、米国/プリンストン大学客員研究員を経て、1975年、東京大学教養学部教授。1991年より国際日本文化研究センター教授(併任)。1992年、東大教授を退官、名誉教授。1999年～2007年に京都造形芸術大学学長を務め、2007年より同大学名誉学長、2009年より名誉教授。この間、1975年～1976年、ウッドロー・ウィルソン研究所(米国/ワシントン)研究員、2002年より米国国会図書館クレーゲ・センター学術委員。専門分野は、近代日本比較文化史、比較文学。

【コメンテータ略歴】

野村 彰男(朝日新聞社ジャーナリスト学校長)

1967年、国際基督教大学卒業(国際関係専攻)、朝日新聞社入社。1970年から東京本社政治部。首相番、野党、外務省、自民党担当などを経て1979年、ワシントン特派員。以後、西部社会部、政治部、外報部のデスクを歴任し、1991年～1993年、アメリカ総局長。1994年、論説副主幹。1998年、朝日新聞総合研究センター所長。2003年～2005年国連広報センター(東京)所長。2006年～2008年、早稲田大学大学院公共経営研究科客員教授。2008年10月より朝日新聞ジャーナリスト学校長。

【参加研究者及び所属】

ANDERSON, Kent	豪州/オーストラリア国立大学アジア太平洋研究院
ESCHBACH-SZABO, Viktoria	ドイツ/チュービンゲン大学アジア地域文化研究所日本学科
HAMZA, Isam	エジプト/カイロ大学文学部
KREINER, Josef	ドイツ/ボン大学、法政大学
MOLTENI, Corrado	イタリア日本研究学会
PRASIRTSUK, Kitti	タイ/タマサート大学政治学部
SAKAI, Cecile	フランス/パリ第七大学
STEINHOFF, Patricia G.	米国/ハワイ大学
TANAKA, Michiko	メキシコ/エル・コレヒオ・デ・メヒコ アジア・アフリカ研究センター
TANKHA, Brij	インド/デリー大学東アジア研究学部
XU, Yi Ping	中国/北京外国語大学
YANG, X. Jie	カナダ/カルガリー大学ドイツ・ロシア・東アジア学科